



福岡県立門司学園中学校・高等学校

生徒一人一人の自己実現を支援する中高一貫校としての特色を生かした 6年間を見通した教育活動と自己表現力の育成

門司学園中学校・高等学校は門司区猿喰（さるはみ）にある併設型中高一貫教育校です。平成16年に門司学園中学校が、平成19年に門司学園高等学校が開校し、今年で創立15年目を迎えています。現在、中高6年間を見通した教育課程により、計画的・継続的指導を行っており、生徒一人ひとりの自己実現を支援しながら、日々の教育活動を行っています。

1 授業改善の目指す方向性

○校訓

- 「自立」 自らの在り方・生き方を探究し、主体性をもって行動できる人間であれ
- 「勉学」 謙虚で向学心篤く、真理を探究し続ける士気旺盛な人間であれ
- 「創造」 共に高めあい、新しい時代を切り拓く知性と創造性に富んだ人間であれ

本校は、かつて国際貿易港として拓けた門司の歴史と伝統を受け継ぎながら、「自立・勉学・創造」の校訓のもと、「社会の変化に主体的に対応できる心豊かな人間の育成」を目指す学校づくりを進めています。

2 授業改善の推進体制と校内での研修

研修部が中心となって、授業改善に向けた職員研修の企画・運営や生徒による授業アンケートを実施しています。本年度は、7月に外部講師を招聘し、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」をテーマに、職員研修を行いました。また、年2回の中高合同教科会議を行い、新学習指導要領で示された新しい学びに対応する教材の今後の在り方について検討・開発を進め、すべての教員が、指導内容や指導方法についての情報を共有し、6年間を見据えた系統的・継続的な指導内容・方法を構築することを目指しています。

また、電子黒板・タブレット（それぞれ中学3台、高校3台ずつ）、書画カメラ（5台）や、プロジェクター（全普通教室に設置）等ICT機器の活用について職員研修を行い、現在では、ほぼ全ての教科で積極的に活用されるようになりました。

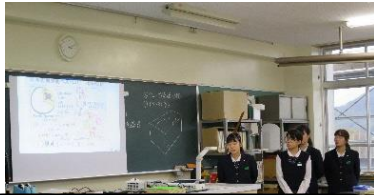
3 授業改善による教師・生徒の変容

(1) 生徒の変容

ICT機器を積極的に活用して視覚的に訴える授業やペアワーク、ディベート、グループ活動等を取り入れた結果、生徒が積極的に発言するようになり、他者の意見に触れることで、多角的に物事を見ることができるようになっています。また授業中「教え合う」活動を行うことで、生徒自らが休み時間や放課後等の時間も「教え合う」様子が見られるようになってきました。また、生徒自身が自分の課題を解決しようとする主体性も見られるようになりました。加えて、この「教え合う」活動により、生徒の人間関係力やコミュニケーション力の向上にもつながっています。



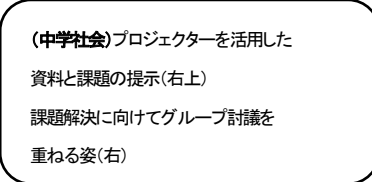
「教え合う」活動の様子



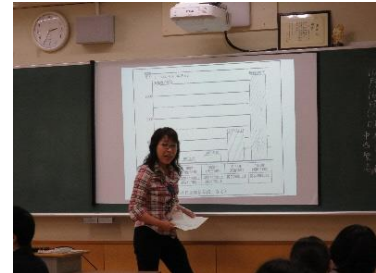
(高校美術)グループで協議した内容を書画カメラ
ラを利用し、投影し発表する生徒(上)
発表を聞き、その内容をまとめている生徒(下)



(高校数学)
命題の真偽について、グループでの協議



(中学社会)プロジェクターを活用した
資料と課題の提示(右上)
課題解決に向けてグループ協議を
重ねる姿(右)



(2) 教師の変容

授業中、ペアワークやグループ討論により生徒の意見を積極的に取り上げるようになったことで、生徒がそのように考える理由や背景を考えるようになってきました。その結果、今まで以上に生徒理解が深まり、授業改善につながっているといた意見や、教員間で授業方法等について話す機会が多くなったことで、いろいろな指導方法について考え、積極的に取り入れようという機運が高まり、学校全体としての指導方法の多様化や指導力の向上にも繋がっています。

4 中高一貫教育校として、強みを生かして

(1) 評価について

中学では、学力の3要素をバランスよく育てることを重視し、各観点のバランスを考慮して評価しています。評価方法としては、「授業に向かう姿勢、学習ノート、課題への取組状況、制作作品、定期考査、小テスト」などを用いて、評価の場面を適切に設定し、学習の結果だけでなく、学習の過程も観察しながら、多面的、客観的に評価しています。

高校の定期考査では、年間指導計画で示した各評価観点を測れるように、作問において工夫し、知識偏重になることなく、記述問題等を効果的に配置するなど、生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成することができるようになっています。課題、レポートでは、その取り組み状況を始め、授業中の発言、実験、実技、実習の状況など、授業に対する関心・意欲・態度を積極的に評価するようにしています。

今後、新学習指導要領の実施に向けて、中高合同で観点別評価や多様な評価が実施できるように、さらに研究を進めていくことにしています。

(2) キャリア教育計画「門司学プラン」に基づく系統的なキャリア教育

6年間の教育活動を通して、生徒に育成していく能力として、

①基礎・基本となる知識・技能を確実に習得し、物事の本質を考察・理解する能力(理解力、思考力)

②情報を理解、選択、処理しながら、課題解決に向けた具体的な手段を計画、実行、評価、改善する力
(課題対応能力)

③他者と協力しながら、自分の能力や適性を生かして、自分の役割を果たしていく力(社会形成能力)
を掲げ、教科・科目の学習だけではなく、総合的な学習の時間やホームルーム活動等を含めた全ての教育活動を通して、それらの能力が身に付くよう取り組んでいます。卒業論文(中学3年)、夢を語るコンテスト(中2、高1)等の学校行事を実施する中で、自分自身と向き合い、整理し、自己表現をする活動を通して、一人ひとりの自己実現に向けた指導を行っています。

5 今後の方向性

本校は、中高一貫教育校として、その特色を一層生かしながら、生徒の実態や希望進路の状況に応じた指導の工夫改善を図っていく必要があると考えています。そのため、中高教員の教科間連携を更に強め、高校卒業段階で身に付けさせる資質・能力を育成するために、教科毎に6年間を見通した指導計画を立案中です。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、指導方法・授業評価方法の研究・工夫・改善に努め、魅力ある分かる授業、学力を高める授業を目指して今後とも全職員で取り組んでいきます。